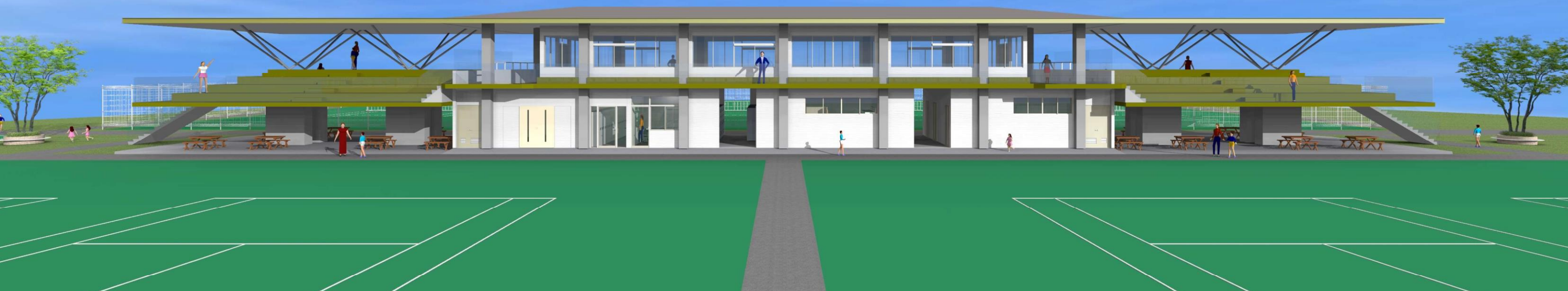


未来への翼の建築



■コンセプト

沖縄のテニス界の歴史を支えてきた奥武山公園庭球場管理棟。

私達は、その思い出がたくさん詰まった既存の管理棟を大切に効率良く再生し、また、その両サイドに新しく「日陰をつくる大屋根」と「ジグザグ型スタンド」を一体化する建築を提案します。

管理棟は改修コスト削減を目指し、水回り等、既存の配置をベースにプランの整理を行いました。整理を行うことで生まれた新たなスペースや屋外ピロティ部分に倉庫や新機能を追加することで、今まで以上に利便性に優れた管理棟へとアップデートしました。

管理棟両サイドの大屋根の下には、日陰空間を2か所つくります。ジグザグ型スタンドは、応援する方々の空間、また、その下のスペースは、休憩所として利用でき、大会時には選手の控え場所を想定しています。状況の違う二つの日陰空間を、多目的に利用します。

「既存の管理棟」と「新しいスタンド」を一体化することで水平ラインを強調した建築が生まれ、それは、「伝統ある歴史」と「新しい未来」を結ぶことを意味します。

沖縄から世界へ羽ばたくテニスプレーヤーを応援する「未来への翼の建築」を創りたいと思います。



西側通路より観客席を見る

■断面ダイアグラム

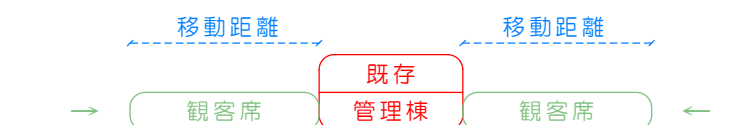
①<別棟で観客席を配置>



- 別棟により、コストがかかる
- 管理棟までの距離がある為、観客の動線の効率が良くない



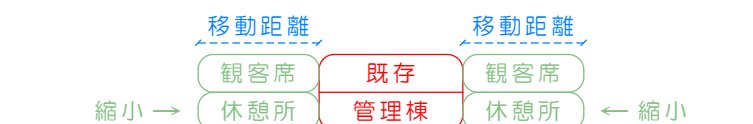
②<別棟の観客席を一体化>



- 管理棟までの移動距離が短縮
- 既存管理棟と観客席を一体化することで、動線の効率化



③<二つの日陰空間を重ねる・観客席を更にコンパクト化>



- 観客席を2Fへ上げることで、1Fに日陰空間ができ、休憩所として利用できる
- 休憩所を柱のみで構成するピロティにすることで、壁が不要となりコスト削減につなげる
- 観客席を更にコンパクト化することで、コスト削減（基礎、屋根の面積を抑えられる）
- 管理棟までの移動距離が更に短縮される

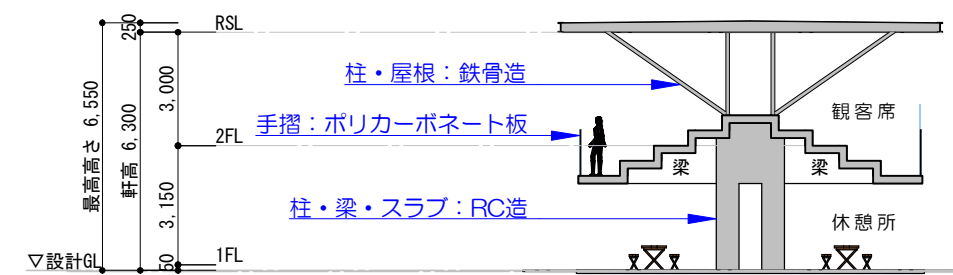


南東側より観客席を見る

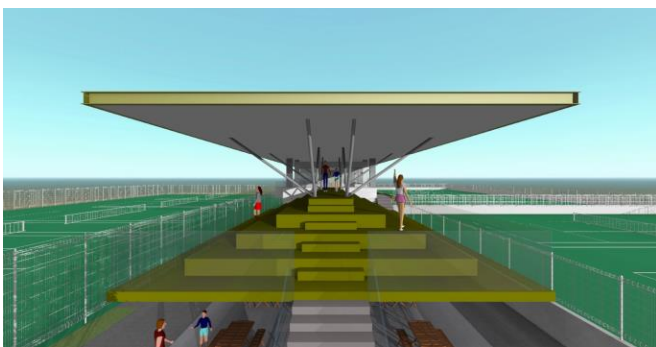
■観客席

大屋根の下にできる日影空間を二層に重ね、1Fを休憩所、2Fに観客席を配置する構成としました。休憩所、観客席は共に柱を中央に配置することで、試合観戦の際、視界の妨げにならないよう計画しました。

構造は、1Fの柱・梁・観客席はRC造、2F柱・屋根については鉄骨造とし、なるべく細く、軽く、薄く、空中に浮いているような屋根（翼をイメージ）をつくります。観客席の仕上げは塗装を想定しています。



観客席 断面図 1/200

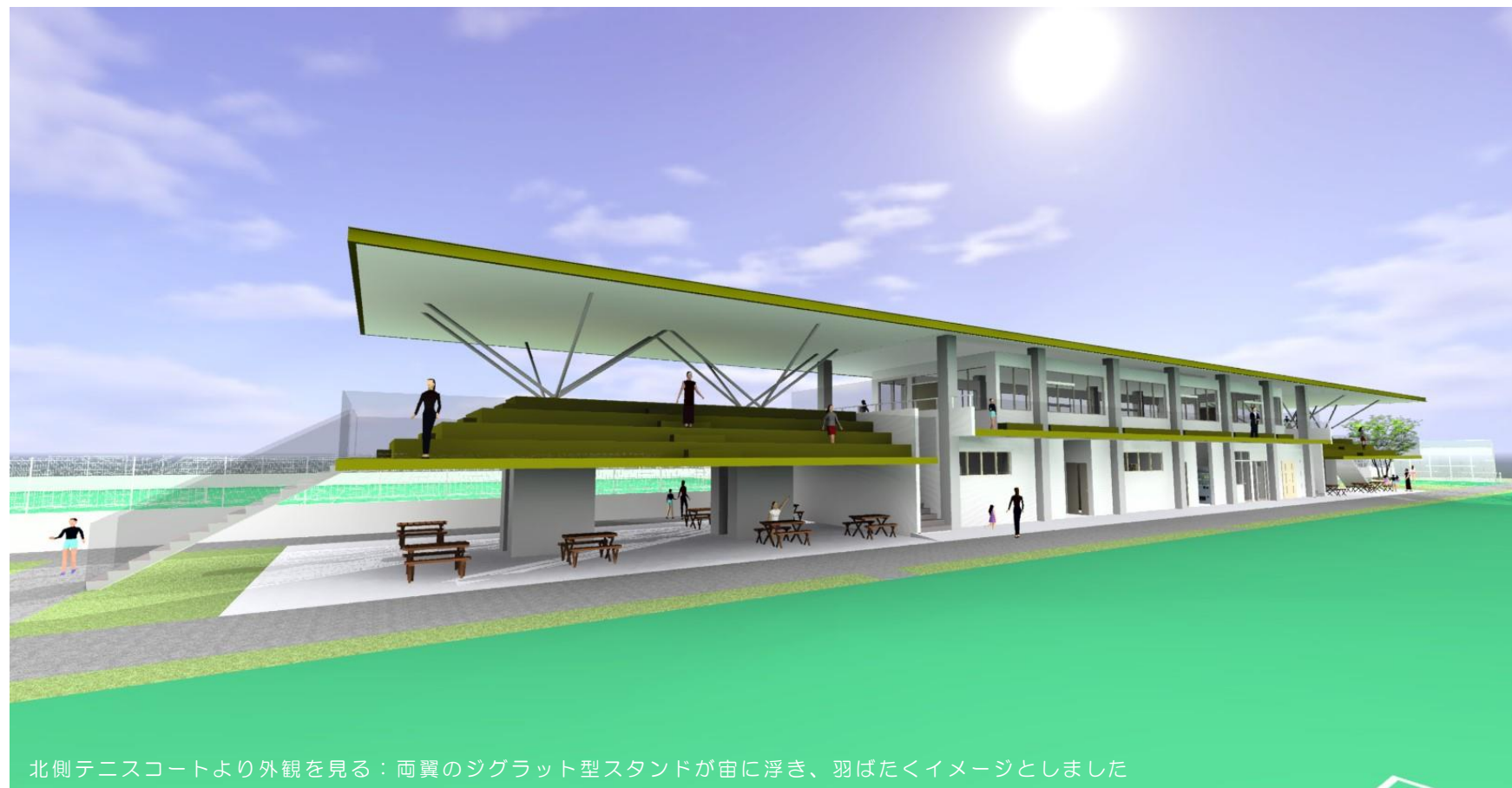
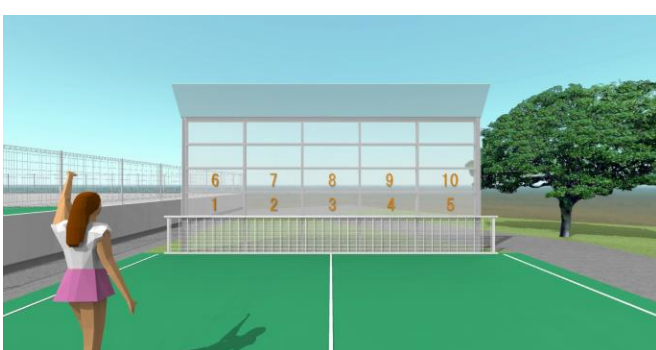


↑西側より観客席を見る
ジグザグ型の観客席は40センチずつ上がっており、南北どちら側の試合でも好きな場所で腰掛けて観戦することができる

↓南側より芝生広場・壁打ち場を見る
壁打ち場の手前側は芝生広場とし、小さい子連れの家族が試合までの空き時間などで子供達の遊び場に利用でき、既存樹木の植え込み部にベンチを設置することで、親が安心して子供を見守ることができる「小さな公園」のような空間としました



↓壁打ち場
半透明のポリカーボネート板を壁として使用し、パネル裏側に柱、梁を鉄骨造で支え、枠内に番号をつけることで、狙い打ちの練習ができる壁打ち場としました

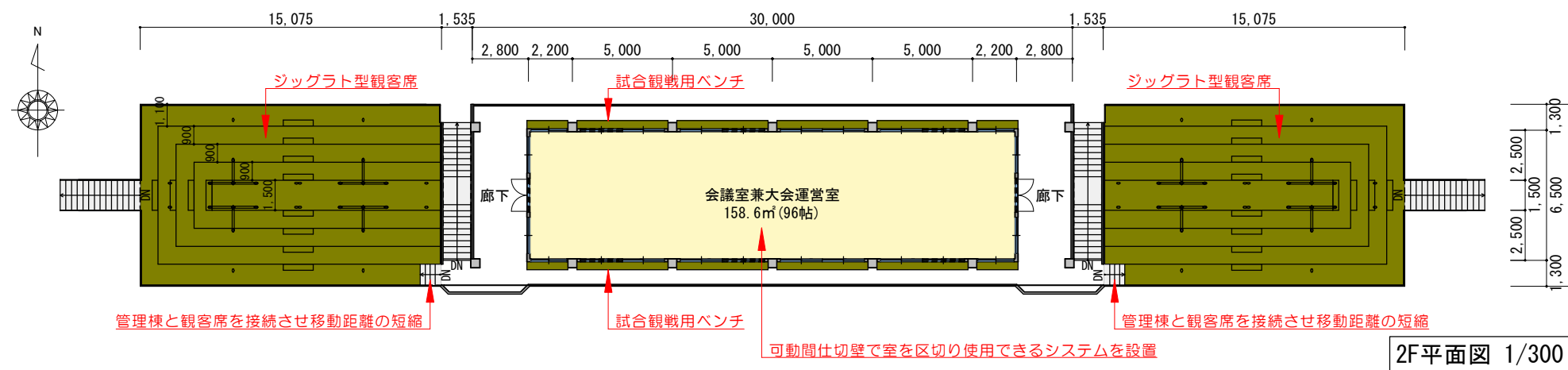


北側テニスコートより外観を見る：両翼のジグザグ型スタンドが宙に浮き、羽ばたくイメージとしました



↑南西側より観客席を見る
屋根を支える鉄骨丸柱を中央に配置、観客席を囲む手摺を透明のポリカーボネート板にすることにより観戦のしやすさを考慮

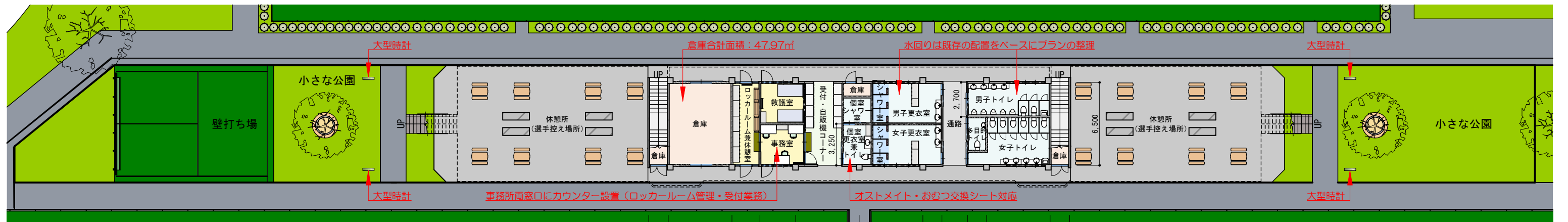
↓ロッカールーム兼休憩室を見る
現地視察をした際、多くの利用者が荷物を放置してテニスをプレーしており、「置き引き多発」の注意書きが多数掲示されていました。その為、本計画に「利用者用のロッカールーム」を提案し、事務室と接続することで置き引きを解消します。



<置き引き多発の注意書き>



<プレー中荷物が放置された状態>



建築面積：434.66㎡ 建ぺい率：40.48% 延床面積：627.61㎡ 容積率：58.44% 観客席：216席

